

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100867		
法人名	社会福祉法人 愛誠会		
事業所名	グループホーム あそうだ		
所在地	熊本県熊本市麻生田2丁目5番41号		
自己評価作成日	平成25年6月26日	評価結果市町村受理日	平成25年8月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成25年7月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅街にあるホームは、騒音が少ない静かな恵まれた環境の中で、ゆっくりとした時間の中で毎日の生活を送ることが出来ています。認知症があっても殆どの入居者の皆様は穏やかな表情で過ごされています。お一人お一人が地域住民のひとりとして、地域の方とのふれ合いの中で楽しく生活を送ることが出来ればと思い、全職員一丸となり入居者の皆様に寄り添い、笑顔で安心して楽しく生活を送れるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム近隣は神社や民家・納屋など昔ながらの馴染みの環境にあり、高い吹き抜けの天井、採光の良いリビングホールでは好みの音楽に穏やかな表情で寛ぐ入居者の姿が来訪者にも安心感を与えている。建学の精神「愛情・真心・敬い・慈しみ・いたわる心」を基本理念とし、法人の持つ医療機能を活かしながら、職員は入居者の健康管理に努め穏やかな日常生活の支援に繋げている。また、地域保育園児やボランティアの来訪、職員のアイデアを活かした和食・洋食を選択できる朝食や、季節感のある手作りを心がけたおやつなど開設時から変わらぬ支援の継続は入居者にとって楽しみやメリハリのある生活となっている。今後も職員の年齢層やチームワークによって入居者・家族の思いに応える地域のホームとしての活躍に期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	愛誠会建学の精神「愛情・真心・敬い・慈しみ・いたわる心」平成25年度スローガンを玄関、スタッフルームに掲示し、また3ヶ月に1回の夕礼・月に1回の検討部会・スタッフミーティングに唱和を行い理念の共有と実践を行っている。	法人の建学精神を基本に地域密着型事業所としての理念や、年度末に見直して掲げるスローガンをホーム内に掲示し、職員の意識付けや来訪者への啓発に繋げている。また、検討部会やスタッフミーティング時には唱和を行い、あらためて理念に沿ったケアの重要性を確認している。	管理者は「理念やスローガンを理解しなければ、良いケアは実践できない」と語っているように、職員への浸透が確認された。今後は、運営推進会議などの中でも機会ある毎に理念について語る事で、更に地域の中の事業所として理解されると思われる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事参加として麻生田公民館でのいきいきサロンへの参加。地域ボランティアの方々には施設行事に来館頂き、歌、踊りを披露して頂いてる。また地域の保育園とも連携しご利用者と子供との交流の機会を設けている。	この1年も公民館で開催されるサロンや地域ボランティアの来訪、保育園児との変わらぬ交流が行われていることが聞き取りや記録写真からも確認された。入居者の高齢化やADLの低下により、以前のように外出による地域の方との交流の機会は少なくなっているが、常に運営推進会議などにより町内清掃や行事などの情報把握を行い、地域の一員として取り組んでいる。	今後は入居者の外出支援やホーム内での交流を継続しながら、職員の意見を取り入れながら事業所として地域の中に出向いていきたいという意向であり、今後の取り組みに更に期待が持たれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開設してから地域との連携を活発に行っている。今年度も地域の保育園、ボランティアとの連携を図る。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を実施しており、自治会、ご家族様から事業所に対する意見や要望を聞き、事業所の運営やケアサービスに取り入れるようにしている。	老人会長や民生委員・地域協力者・家族などの参加により開催される会議は、ダイニングルームで行われるため入居者の声や動きなど参加者が状況を見ながら進行されている。会議の中では水害や他県のグループホーム火災などの災害対策についてもホームの取り組み・避難先など近隣・地域の協力体制が報告・確認されている	役所にも会議の案内をメールや電話で行っているがこれまでのところ参加は得られておらず、今後は地域包括へも参加を依頼し会議が進められることが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市高齢介護福祉課から介護相談専門員が毎月来館されている。取組みとして、ご利用者のニーズを第三者の立場で聞き取って頂き、その報告書を基にケアサービスや施設運営に活かしている。	直接、市役所の担当者窓口を訪れる機会は少ないようであるが、運営推進会議の案内を行う際、限られた時間ではあるがホームの現況を伝えている。現在は市介護相談員の訪問を通し、行政と連携を図りサービスの向上に繋げている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等の排除マニュアルや過去の事例などを活用し、全職員を対象とした勉強会を研修計画に基づいて行い、スタッフ間による話し合いを重ねている。	マニュアルやインターネット・新聞などから得た事例を通し、研修や会議などで共有を図り正しく拘束を理解し実践に繋げている。管理者はスピーチロックについて指導を行い、技術だけではなく愛情を持ってケアにあたることの大切さを伝えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法関連法に関する職員研修を行い、利用者本位のケアに活かす試みを行っている。入浴時等、ホデイチェックを行い、虐待が見過ごされないよう職員一人ひとりが心がけケアに当たっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、1名のご入居者の方が利用されている。日常生活自立支援事業や成年後見制度に関する職員内部研修を行い、今後のケアに活かす試みを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	定期的に研修会を行っている。また契約時には、契約書とは別に重要事項説明書を項目毎に分かり易く説明しご了承頂いた後、署名、捺印を頂いてる。改正時も同様で、変更合意書の取り交わしを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回運営推進会議にご家族にも会議メンバーとして参加して頂き、ご本人及びご家族の要望、施設運営についての率直な意見を頂いてる。ご家族様満足度アンケートの実施により意見を頂き、運営に反映させている。	入居者と日々のコミュニケーションを図る中で要望を尋ね対応を検討している。また、家族からは運営推進会議や来訪時、電話などで意見・提案を確認している。料理や掃除などできることを支援して欲しいとの要望を受け、希望や体調に配慮しながら今後も楽しみながら関わってもらうことを会議や面会時に説明を行っている。	事業所が実施しているアンケートについては、配布時期や入居者の状況に応じ、内容を見直して行うことで家族の思いや意見・要望が反映された事業所運営に繋がっていくと思われる。今後の取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者、全職員が参加する質の向上を目的とした検討部会を月1回行っている。その際、職員から意見、要望を出して貰う事によりケアの現状、課題を全体把握し、スタッフの質の向上や目標の共有化を図っている。	検討部会やスタッフミーティングでは業務の確認を行いながら職員の意見や提案を聞き入れている。「家族も参加してくれるイベントを企画してはどうか」の提案を受け、たこ焼きパーティが開催され、入居者・家族に好評を得、職員にとっても自信に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者、職員の勤務状況の業務スケジュール等把握し無理、無駄のない業務確認を行い、毎月のスタッフミーティングにより職員からの意見を取り入れている。又、定期的に個別面談を行い意欲の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内、法人全体での職員研修を定期的に行っている。職員個人の達成レベルに応じたカリキュラムを整えた、通年の目標達成計画を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設見学を行い、市内の同業他事業所との職員間、利用者間ネットワークを育て、相互理解、質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する前に本人、家族、担当ケアマネジャーにお会い、カンファレンスを行いご本人の身体、精神状態等を確認し生活がスムーズに出来るように準備している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居にあたり、今までの生活スタイルや家族の介護経験を聞き、本人のより良い生活が継続できるように準備している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入にあたってはグループホームの介護のみではなく、今までのサービス内容が継続できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理の手伝いや片付け等を一緒にしたりして、暮らしを共にする者同士の関係作りを目指し支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に本人に関することは、相談した上で、共に本人を支えていく関係を築けるよう対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生まれ育った場所での神社のお参りなどを大切に、個別援助計画による個別バスハイクや散歩で寛ぎの場所となるよう支援に努めている。	入居者にとって大切な家族との関係が途切れないよう、来訪時には居室・リビング・ホールなどゆっくりと過ごしてもらえるように配慮している。家族の協力により法事で帰省した際は親類との時間を大切に過ごされている。また、入居者の現状を伝えることで家族にできる馴染みの支援への協力が行われている。ダンスが得意だった入居者の家族（遠方）が次回の訪問時にはタンゴのCDを持参される予定である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	身体レベルに即した席割りや部屋割りを行うことで、利用者同士が関わり合える環境を作っている。ご利用者の趣味、嗜好にあったレクリエーションを実施することにより孤立せずに楽しい生活の場を提供している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努める。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話を通じて本人の意向を確認し、その人らしい生活ができるような支援に努めている。困難な場合は、家族から情報を収集して本人の思いに沿うように努めている。	職員は日頃から入居者に寄り添い語りかける時間を持つことを心がけ、コミュニケーションの中で思いや意向を把握している。また、来訪時や電話など家族の状況に応じ近況を伝える中で情報収集を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメント時に生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	同じ方であっても、同じ1日の過ごし方ではないため、記録や申し送りを通じて、心身の状態も含め総合的に把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎にモニタリングを行っている。スタッフミーティングで意見を出し合い、本人らしい自立支援出来るような介護計画を作成している。	モニタリングやスタッフミーティング、個別記録などからの情報を入居者の担当職員と共に全職員が共有することで、本人がより良く暮らすための支援方法を見出している。計画作成担当者は、確認した本人・家族の意向を取り入れ現状に即したプランを作成し説明・了承を得ている。	職員のチームワークが活かされた記録の数々が確認され、今後も家族と連携を図りながら作成や説明に努められることに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの内容・結果・気づきを個別記録に記入し、職員間で情報を共有している。関係者間での協議により介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対応する為に個別バスハイクを計画したり、柔軟な支援により、はりのある生活を継続して頂けるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外部からのボランティアや保育園児との交流により、安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を継続している。受診は家族対応を基本に事業所としても一人に対して、2週から4週に掛けて外出支援にて受診し、対応に努めている。	入居者が慣れ親しんだかかりつけ医の受診を継続しており、家族が遠方の場合など状況によってはホーム側も同行している。受診結果を互いに共有し、特に服薬の管理体制を強化している。夏場の体力低下や状態変化、食欲不振などに協力医や訪問歯科医と連携し、日々の水分量や食事内容に工夫している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は日々の観察やバイタルの中で、利用者の状態に変化がある時はもとより通常もかかりつけ医に相談し、緊急時は主治医、ご家族と相談し、緊急受診が出来る様に体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院となった時はもとより普段から介護情報の提供を行っている。治療中は医療関係者との連携を取って情報を収集し、退院後のスムーズな支援体制に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際に重度化した場合や終末期のあり方についての話し合いを行っている。又、運営推進会議でも施設の取組や方針を報告し理解が得られるよう努めている。	入居時の説明で本人、家族へ重度化や終末期についてのホームの方針を伝えている。医療行為が必要となり治療優先となった場合を退去の目安としているが、ホームでの生活を望む入居者や家族の思いに応えながら日頃の状態観察に力を入れ、異常の早期発見、早期対応に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡体制や事故発生時のマニュアルは用意しており、心肺蘇生法について勉強会をしている。その為、職員が急変時に落ち着いて適正な対応が出来るよう、研修を重ねて行きたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災対策の基本である火災避難誘導の訓練を夜間と昼間想定で年2回行っている。夜間想定での避難訓練ではご利用者にも参加いただき、避難誘導し難い点、対策について話しあっている。	消防署立ち合いによる昼夜を想定した火災訓練を実施している。今回は近隣住民も参加し消火器の使い方について共に指導を受けており、有事の際の一時避難所としても協力が得られている。消防署の総評を受け、住民に知らせる為に再度、緊急ベルを鳴らす事や避難の為、扉は火元周りのみを閉めることなどを今後の課題として記録している。	住宅地であることから特に夜間帯は地域の協力が不可欠と思われる。引き続き連携を図りながら備蓄等についても検討が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護マニュアルを基に勉強会を開催し、言葉掛けや対応などプライドを損なわないように、またケアの場面において一人ひとりのプライバシーが確保できるケアにあたっている。	内部研修ではマニュアルを通じ、入居者への尊厳について学んでいる。呼称を苗字にさん付けとし、入浴時の同姓介助にも入居者の希望に応じている。管理者は入居者に安心して過ごしてもらう為には職員との日々の関りが重要として言動の一つひとつに注意を払うよう指導している。	昨年より入居者への支援のあり方や職員自身の接遇マナーなど日頃の気付きを記録として残し、検討課題としながら統一を図るよう進めており、今後のケアに反映されることを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	グループホームは生活の場所であり、時間で束縛する事なく、自己決定が出来る環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーション、趣味、嗜好に基づいてご本人に自由に過ごせるように環境作りに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	声掛けを行い、本人が着たい服を選んで頂いている。希望があればなじみの美容師に訪問を依頼するなどして、本人の個性が維持出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者が無理の無いよう、出来る範囲で食事の準備や片づけを職員と一緒にやっている。	入居者が食事作りに直接関ることは少ないが、テーブル拭きや下膳など出来ることで参加している。献立表は一日三食分を(朝、昼、夕)わかり易く別紙にまとめ、朝食にはセレクトメニューを取り入れ入居者に選択の場を提供している。調味料以外の食材は配達となっているが、季節感を取り入れ入居者の好みを反映させている。	入居者が食材に触れる機会は少なくなってきており、旬の野菜を目で楽しむなど工夫することで食への関心にも繋がるものと思われる。併せて検食者による味や量の確認にも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスにおいては法人の管理栄養士に相談している。また、水分補給をまめに行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けの方、見守りが必要な方、介助が必要な方と個々に応じてケアを行っている。状態によっては訪問歯科により口腔内のフォローをして頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用しながら、排泄のパターンを把握し、自立に向けた支援を行うよう努めている。	個々の排泄パターンを把握し時間や様子を見ながら声かけや誘導を行い、入居者の自信に繋がるような対応を心がけるとともに、日に三度のトイレ掃除により何時でも清潔に使用できるよう心を配っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用しながら、排便コントロールに気をつけている。自然排便を促す為に、適度な運動(ラジオ体操)や水分補給の声掛け、腹部マッサージ等を施行し便秘にならないように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日お風呂を準備している。1日おきの入浴を目安にしているが、希望があれば入浴日でも入って頂いている。	一人ひとりの入浴日が決まってはいるが、希望があれば出来るだけ別日でも応じている。お湯の入れ替えをその都度行い、清潔な浴槽でゆっくり入ってもらうよう支援している。清拭での対応や排泄の失敗時にはシャワー浴で対応し清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースに合わせて、その時々状況に応じて見守ったり、温度調節をしたり、布団掛けの調整で良眠できる睡眠を目指している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の管理は職員が行い、服薬の際は、服薬ダブルチェック表を作成し、飲み忘れや誤薬防止の為に取り組みを行っている。名前を声に出して細心の注意を払いケアに当たっている。服薬が原因と見られる体調不良時は主治医に相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に合わせ、食事の片付けなど利用者が出来ることは無理強いせずに見守っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩や菅原神社へのお参りなど外出の機会をつくりまわりの景色や季節を感じて貰っている。家族にも外出支援の協力をして頂いている。	全員揃っての外出が難しくなっているが、個別での近隣散歩や病院受診への外出、家族の協力による外食支援などが行われている。遠出が厳しくなった分、運動会や母の日を祝う会、クリスマス会などを企画し家族が入居者と共に過ごす機会を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、お金を持つこと、使うことの大切さを理解しており、実際に欲しい物を購入出来るよう、自立支援を行っている。同時に家族同意の下で事業所預かり金がある。必要とあらばお金を預かり管理を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の今までの関係性を壊すことなく、手紙や電話のやりとりを支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光彩や室温に気を配り、空調の管理を常に行なっている。ラジオやBGMとして音楽を流すことにより、居心地よく過ごせるようしている。花を生けたり季節の創作物を掲示したりしている。	建物両端に設けられた食堂とリビングをつなぐ廊下を歩行訓練にも活用しながら生活に変化をもたせている。浴室やトイレは職員の手によって清潔に管理され、気持ちよく使用できるよう配慮している。また、食堂の窓から望む車や人々の往来、季節の花火大会の様子も眺めることが出来、入居者の楽しみとなっている。	ホームの掲示物については定期的に見直しを行うことや、リハビリを兼ねて入居者の作品の掲示や、散歩・散策時に見つけた草花を飾ることでより季節感のある心地よい空間になっていくと思われる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室、リビング、ダイニングと複合的に利用することにより、開放的な空間で思い思いに過ごせている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れた調度品を居室に設置することにより、居心地よく過ごせている。	家族の協力により使い慣れた家具やテレビ、思い出の写真、友人からの絵手紙などが持ち込まれている。入居者の希望や身体状況によって品々を移動する場合も家族と一緒にいき安心して過ごせる環境作りが行われている。また、職員が入室する際は室温を肌で確認し適温になるよう努めている。	入居者の過ごしやすい環境に努めており、今後も家族と一緒に掃除や持込の品の見直しが行われることを期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分かる様に掲示物として「御手洗」の案内表示をしている。安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。		